

# 6がつのくもの子の会だより

<H.26.5.30>

いよいよ梅雨シーズンが始まります。今年は、梅雨がながく、梅雨明けが遅くなる... というような予報も耳にしましたが、あのじめじめ時期がながびくと思うと、えーとこの気持ちになりますね... でもこれも自然の現象でうけ入れなければならぬので、うまいことつきあっていきましょね。さあ、今月もリズムで身体を思いきり動かして、すてきな歌を唄ったり、わらべうたをあそびながら、楽しい時間を共にすごしましょう~。

~「甘えさせ」と「甘やかす」 違います! ~

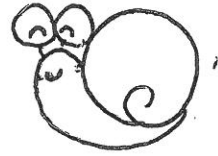
私たちは、一人では生きられません。特に子どもには、愛されているという安心感が重要です。この安心感のもとでエネルギーを得て、成長へと進んでいくのです。

「甘えさせ」とは、子どもが不安なときに、力を与えるもので、次の成長へとつなげる土台を作ります。一方「甘やかす」は、わが子がかわいそうといふ、親の気持ちや主になっています。見極めは難しいのですが、子どもの「次」につながっているかどうかを決めます。

~ 甘えさせることで育つ 5つの力 ~

## ① 自己肯定感

へこたれない強い心を育むカギは、「自分は何となくの女子人間だ」という自己肯定感です。これは親に十分甘えられ「愛されている」



という実感が持ててこそ育まれるもの。男女ともに、思春期までは十分に甘えさせることが大事です。(後略)

## ② 挑戦する力

親の甘え、楽しくてワクワクした気持ちになると、大脳辺縁系の中にある扁桃体(「好き嫌い」を感じ的部分)から前頭前野(ワーキングメモリ)に情報伝達物質が送られ、海馬(記憶の貯蔵庫)が活性化し、「楽しい」という情報が蓄えられます。これにより、楽しくてワクワクするだけではどんどん挑戦したくなり、才能が伸びていくのです。(のびのび子育て5月号)

子育てで一番大切なことは、子どもの能力を育てることではありません。能力を育てる教育と違って子育ては子どもの心を育てることであり、そこにはこそメインテーマがあります。

心を育てることは関係を育てることです。そのためには、さまざま人間関係を経験し、トラブルを乗り越えることが不可欠です。その経験を通して初めて子どもは人の身になって考える智慧を身につけることができるのです。(絆を深め合う道程より)